

サンマルシェ循環バスの見直しに関する追加資料について

■重複区間の運賃差異による利用者への影響

サンマルシェ循環バス（以下「循環バス」という。）の運行ルートは、名鉄バス及びかすがいシティバスの運行ルートと極力重複しないようにルートを設定しているため、重複区間は2か所であり、バス停区間としては1区間である。（別紙1「サンマルシェ循環バスの重複区間と利用状況」参照）

① 岩成台西 ⇒ 岩成台北（1区間、距離約530m）・・・別紙1にて紫色で表記

- ・OD調査日において、重複区間での利用は循環バス・名鉄バスともゼロであった。
- ・岩成台北バス停を通過後、循環バスは中央台方面へ、名鉄バスは藤山台方面へ向かうので、利用者は行き先に応じて乗車するバスを選択すると想定される。

② 藤山台東 ⇒ 中央台（1区間、距離約400m）・・・別紙1にて緑色で表記

- ・OD調査日において、重複区間での利用は循環バスと名鉄バスはゼロであり、かすがいシティバスでは平均1.4人/日の利用がみられた。
- ・現在、3者の運行主体が重複区間においてそれぞれの運賃設定で営業を行っている。（循環バス170円、名鉄バス190円、かすがいシティバス200円（高齢者は100円））

上記より、現況において重複区間における利用者への影響はほとんどないと推測されることから、今回の運賃改定により利用者が混乱する恐れはないと考えられる。

■改定運賃を200円と設定した理由

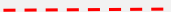
- ・事業採算ベースでは、適正な運賃は440円である。
- ・事業継続の観点からは、可能な限り440円に近づける必要があるが、現行運賃（170円）からの改定であることを踏まえ、弊社等の費用負担額圧縮にもつながる現実的な運賃の検討を要するとの認識である。
- ・循環バスルート区間に相当する名鉄バスルート区間の運賃と比較した場合、事業採算性も考慮し、中央台起点の名鉄バス運賃は190円～220円（対キロ運賃）の最高額220円が妥当である。（別紙2「近傍バス路線の運賃」参照）
- ・しかしながら、現行運賃から50円の値上げは利用者への影響が大きいと判断し、上記名鉄バス区間の運賃（190円～220円）の中間値である200円に設定した。

事業採算性や近傍バス路線の運賃水準、利用者への配慮など総合的に判断し、1乗車大人200円で設定した。

以 上

サンマルシェ循環バスの重複区間と利用状況



サンマルシェ循環バス  藤山台ルート	名鉄バス 70 藤山台南 *****	名鉄バス 75 石尾台 *****	かすがいシティバス 東北部線 
均一制運賃170円(予定200円)	対キロ運賃初乗り190円	対キロ運賃初乗り190円	均一制運賃200円
OD調査 実施日（1回） R7年5月13日(火) 14日(木)	OD調査 実施日（1回） R7年5月13日(火) 14日(木)	OD調査 実施日（1回） R7年5月13日(火) 14日(木)	OD調査 実施日（3回） R5年3月(平日2日・休日1日) R6年3月(平日5日・休日2日) R6年12月(平日5日・休日2日)
① 起 岩成台西 ↓ 終 岩成台北 0人	① 起 岩成台西 ↓ 終 岩成台北 0人		
② 起 藤山台東 ↓ 終 中央台 0人		② 起 藤山台東 ↓ 終 中央台 0人	② 起 藤山台東 ↓ 終 中央台 *1.4人 平均値

※ サンマルシェ循環バスは一方運行であるため、重複区間としては同方向に運行する他のバスを比較対象とする。

近傍バス路線の運賃



— サンマルシェ循環バス
····· 名鉄バス
- - - かすがいシティバス

【 名鉄バス運賃 】

中央台 ⇄ (円)		
運賃	中央台 ⇒ ～高蔵寺駅北口	中央台 ⇒ ～石尾台南
190 円	岩成台 岩成台小学校	高森台 石尾台
220 円	—	高蔵寺駅北口
		石尾台北
		細野
		石尾台東
		押沢台
		石尾台南

中央台 ⇄ (円)		
運賃	中央台 ⇒ ～藤山台南 ～高蔵寺駅北口	中央台 ⇒ ～植物園
190 円	藤山台東	高森台
	藤山台	—
	藤山台南	—
	円福寺前	—
200 円	—	高蔵寺高校
	—	烏洞橋
	—	高森台西
210 円	—	高森台四丁目
220 円	白山	—
	白山橋	—
	高蔵寺北口	—

(参考) 春日井市・名鉄バスからのご意見

春日井市

地域を支える重要な移動手段であり、改定予定の地域公共交通計画では、地域生活交通として、かすがいシティバス（コミュニティバス）を補完する交通として位置付けており、また、高蔵寺リ・ニュータウン計画に定められた循環バスであり、本市にとって重要なバス路線と考えていることから、サンマルシェ循環バスの運賃を 200 円とすることは、かすがいシティバスと同額であり、公平性が保たれると考える。

名鉄バス

サンマルシェ循環バスの運賃改定（200 円）に対する考えについて

- すでに、かすがいシティバス、サンマルシェ循環バス、名鉄バスが重複区間を運行している現状があり、（サンマルシェは、名鉄バスの経路となるべく重複しないように設定されている）初乗り運賃が、200 円、170 円、190 円とすでに複数運賃設定であるが、利用者の混乱は見られない。
- 仮に、名鉄バスの初乗り運賃に合わせたとしても、今後名鉄バスが運賃改定をした場合に、またズレが生じてしまう可能性がある。（対キロ運賃と均一運賃の弊害）
- 重複する初乗り区間は、経路の異なる区間を除き一区間（岩成台西～岩成台北）であり、その区間での利用は皆無である。
- サンマルシェ循環バスは、主に地域住民の買い物等の日常生活の移動手段というコミュニティバスの性質が強い路線であり、かすがいシティバスの運賃と調整するほうが、公平性という観点からも地域住民からの理解は得られやすい。

以上により、サンマルシェ循環バスの運賃を 200 円に改定することには合理性があると考ええる。